

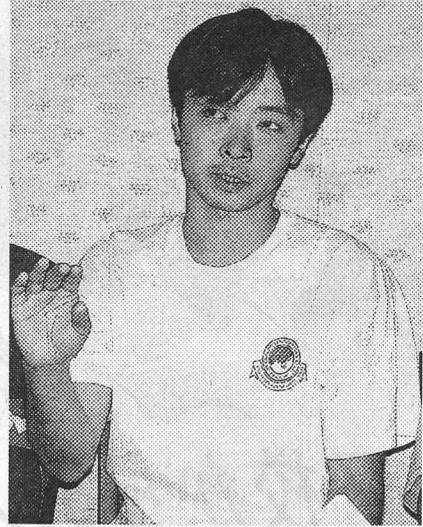
# 手の感覚がない／体がなぜか痛い

## トルコで AMD A 救援報告

医師ら帰国

### 被災者の「ケア」訴え

AMD A (アジア医師連  
絡協議会、本部・岡山市)  
のトルコ大地震緊急救援チ  
ームは5日、現地での医療



トルコでの医療救援活動について語る上田明彦医師  
—成田空港で5日正午

# 心がきしむ 心が崩れる

彦医師(32)は東京都調布市在住。この日、毎日新聞のインタビュに答え、阪神大震災でも指摘された心のケアの大切さなど、今後の課題を語った。

語の出来る若者が「通訳的(外傷後ストレス障害)とましようか」と申し出てくれたのもうれしく、心強かった」と振り返る。

上田医師は阪神大震災の直後、当時勤務していた長野県の病院から単独で医療ボランティアとして駆けつ

救援活動をほぼ終え、調整員らが成田空港に帰国した。一員としてトルコに12日間滞在、医療活動で中心的な役割を果たした上田明

上田医師は、地震発生4日後の先月21日、震源地イズミトの南西十数キロにある山村、ヌシェティエ村(人口約1000人)に入り、延べ400人の患者を診察した。「村は2年前から無医村で、地震で通信も途絶していた。しかし被害のひどかったギョルジュク(イズミトの西約10キロ)から被災者が大量に流入。我々が救急車で到着した時には住民が車を取り巻くように

### デスクです

以前、毎日新聞の難民キャンペーンでバンガラデシユの子どもたちに文具を贈る運動がありました。鉛筆を贈られた女の子が高校を卒業して、今度は自分がバンガラの子どもたちの役に立とうと看護婦を目指して来日した時の記事で、私は見出しに「愛が愛を生んだ」とつけました。毎日新聞大阪社会事業団のトルコ地震救援事業に寄せられた募金は1200万円を超えました。直接持参する読者が多いのが特徴です。阪神大震災の時に全国から集まったやさしさが、今、新しいやさしさを生んでいます。(山崎)

**募金受け付け** 毎日新聞社会事業団の救援募金は、「トルコ地震救援金」と明記して、左記へ郵便振替、現金書留で送金していただくか、直接お持参下さい。なお、物資の受け付けはいたしません。  
〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5、毎日新聞大阪社会事業団「トルコ地震」係(郵便振替00970・9・12891)

野宿も覚悟していたが、「精神科の専門ではない診療拠点や宿泊先(村の民家で詳しい診断はできない)がすぐに決まり、「英が、明らかにPTSD(心して集まった」という。けた経験がある。

次いだ」と言い、「今後はが進むことを望む」と訴え、AMD Aとしても「今後はさらに迅速に現地入りできるように態勢を整えたい」と意欲を見せた。

AMD Aはトルコ地震で、外国人医師を含めて最大時14人のスタッフを派遣。現在、日本人の調整員1人が残り、今後の国際協力についての調査などを続けている。【野原 靖】